

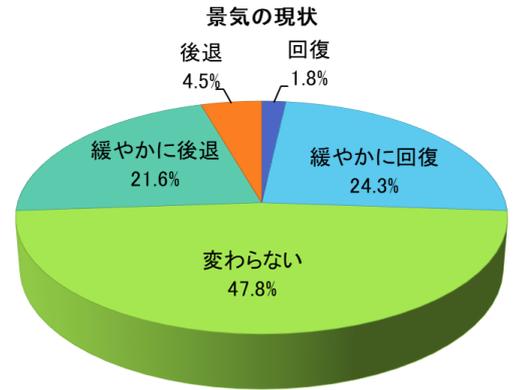
大分商工会議所 第86回景気動向アンケート調査結果（令和4年10月調査分）

調査対象：当所会員222事業所へ経営指導員が原則聴き取りで調査

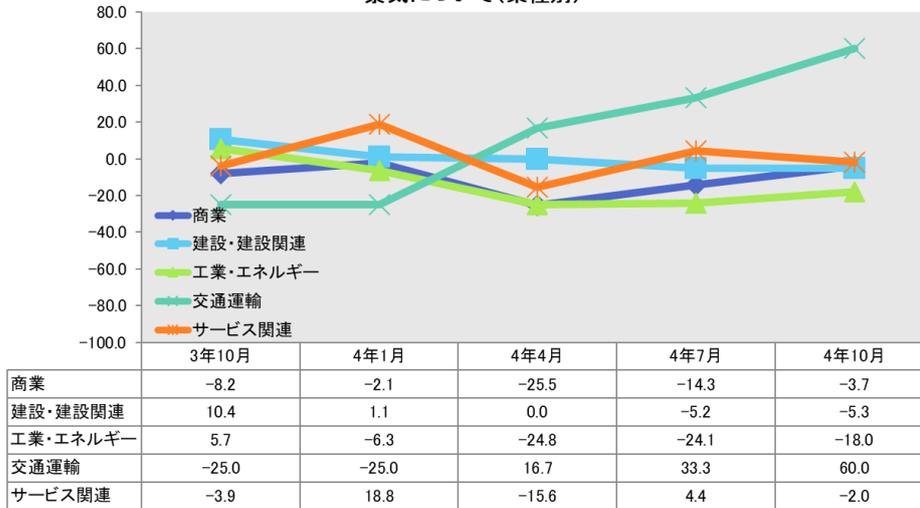
DI値：ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値。

I. 景気について

- 令和4年7月～9月の景況DIは、前期▲6.1から6.1ポイント上昇の0.0となった。
なお、前年同期比（令和3年7月～9月）は3.5ポイントの上昇。
- 「回復」（0.9%→1.8%）、「緩やかに回復」（22.9%→24.3%）、「変わらない」（46.3%→47.8%）、「緩やかに後退」（24.3%→21.6%）、「後退」（5.6%→4.5%）。
- 業種別DIをみると、「商業」、「工業・エネルギー」、「交通運輸」の3業種で上昇した。

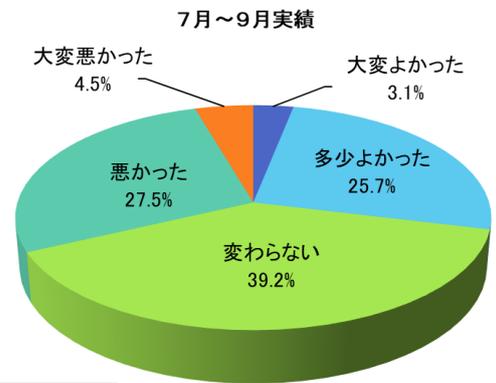


景気について(業種別)

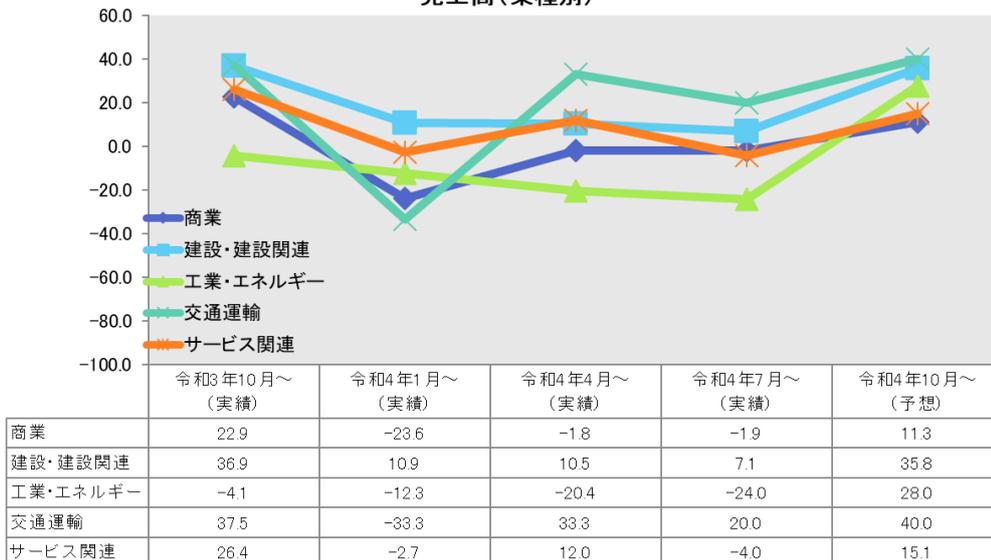


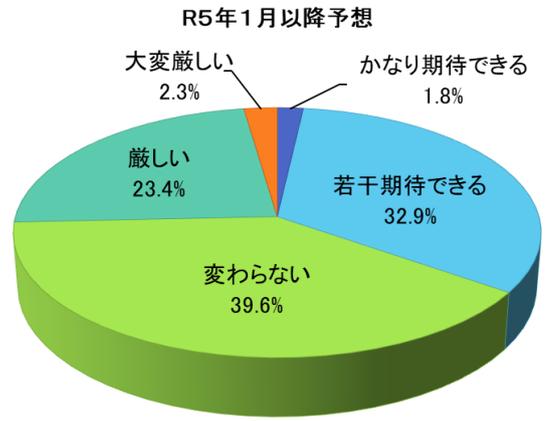
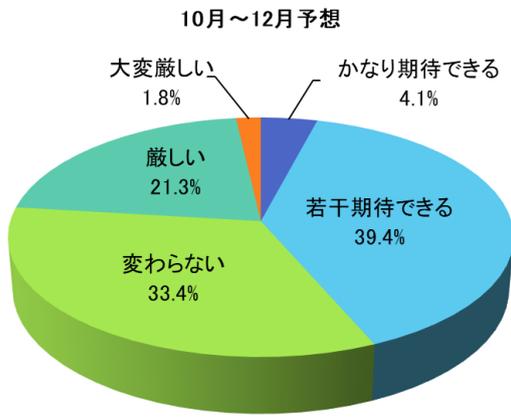
II. 売上高について

- 令和4年7月～9月の売上実績DIは、前期3.7から6.9ポイント下落し、▲3.2となった。なお、前年同期比（令和3年7月～9月）は23.7ポイントの上昇。
- なお、業種別の売上実績DIは、全業種で下降した。
- 売上予想DIについて、来期（令和4年10月～12月）は20.4、年度後半（令和5年1月以降）は9.0となっており、先行きに対する期待感が表れている。



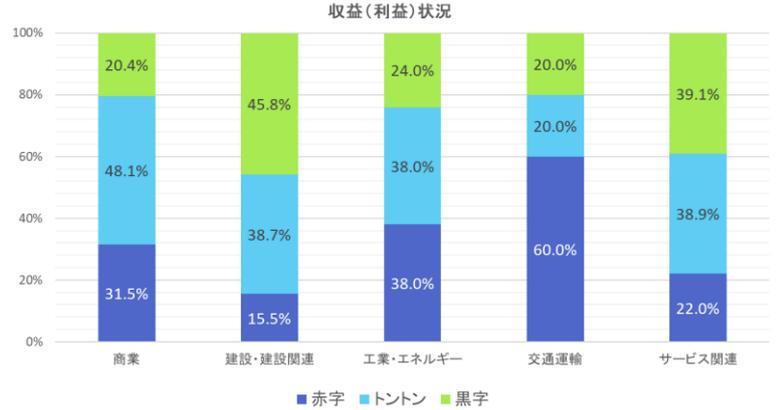
売上高(業種別)





Ⅲ. 収益（利益）状況について

- 「黒字」(32.2%→32.4%)、「収支トントン」(43.5%→39.2%)、「赤字」(24.3%→28.4%)となり、収益状況はやや悪化している。
- 業種別では、「商業」(26.8%→31.5%)、「建設・建設関連」(13.1%→15.5%)、「工業・エネルギー」(21.3%→38.0%)、「サービス関連」(20.9%→22.0%)で赤字割合が増加。



Ⅳ. 雇用状況について

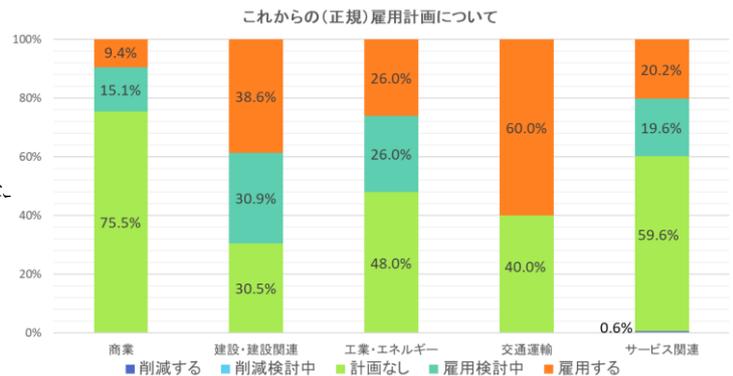
(1) これからの臨時・派遣従業員等の利用について

- 「拡大」(1.8%→3.3%→2.3%)、「現状維持」(81.8%→82.5%→80.3%)、「縮小」(16.4%→14.2%→17.4%)。



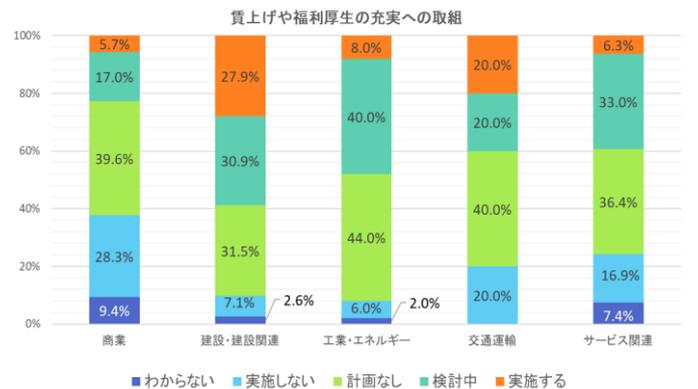
(2) これからの(正規)雇用計画について

- 正規雇用は「雇用する」「検討中」を合わせて41.2%で、前期38.4%から2.8ポイント上昇。
- 業種別では、「商業」、「建設・建設関連」、「工業・エネルギー」で「雇用する」「検討中」の合計割合が増加している。



(3) 賃上げなど雇用報酬や福利厚生の充実

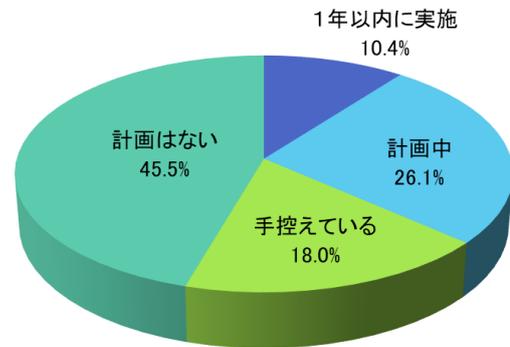
- 「実施する」「検討中」を合わせて38.0%で、前期31.6%から6.4ポイント上昇。
- 業種別では、全ての業種で「実施する」「検討中」の合計値が増加している。



V. 設備投資について

- 「1年以内に実施」「計画中」(31.5%→27.2%→36.5%)、
「手控えている」「計画はない」(68.5%→72.8%→63.5%)
となり、投資意欲は増加傾向。

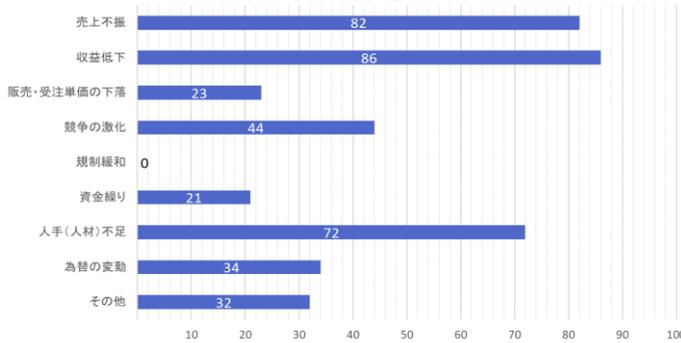
設備投資について



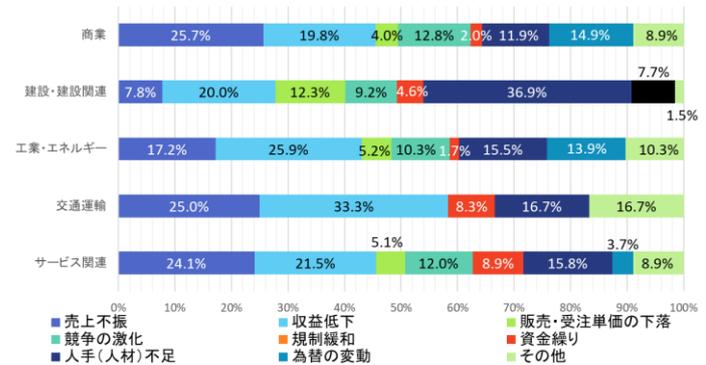
VI. 経営上の問題について (複数回答)

- 前期と同じく「収益低下」をあげる声が多かった。次いで「売上不振」、「人手(人材)不足」の順となった。また、「為替の変動」が前回調査時から12ポイント増加して34ポイントとなった。「その他」については、物価や資材の高騰、材料などの納期遅れなどの声が多くあげられた。
- 業種別では、「建設・建設関連」は「人手(人材)不足」が、「工業・エネルギー」、「交通運輸」は「収益低下」が最多で、「商業」、「サービス関連」については「売上不振」が最多となった。

経営上の問題(全業種・複数回答)



経営上の問題(業種別・複数回答)

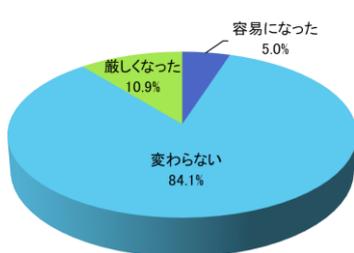


VII. 資金繰りについて

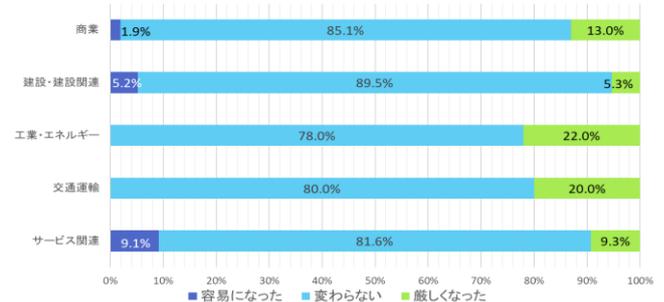
(1) 現状の資金繰り

- 「容易になった」が前期5.6%から0.6ポイント悪化し5.0%、「厳しくなった」は前期11.3%から0.4ポイント悪化し10.9%となっている。
- 業種別では、「商業」(1.8%→1.9%)、「サービス関連」(5.2%→9.1%)で「容易になった」が増加した。

資金繰りについて



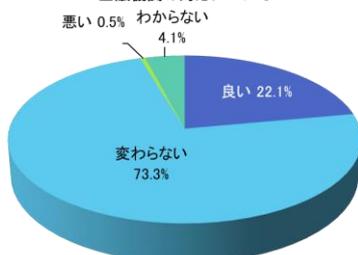
資金繰りについて(業種別)



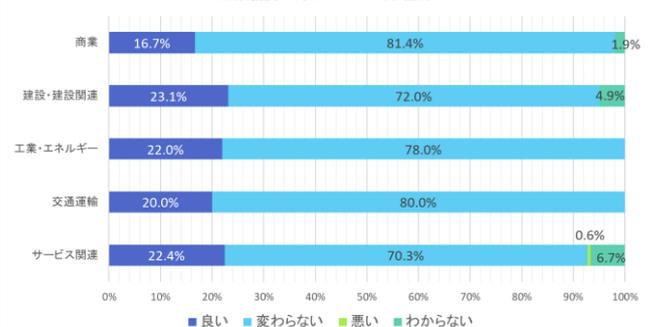
(2) 金融機関の対応

- 「良い」が前期23.1%から1.0ポイント悪化し22.1%、「悪い」が前期2.4%から1.9ポイント改善し0.5%。
- 業種別では、「交通運輸」、「サービス関連」で「良い」が増加している。

金融機関の対応について

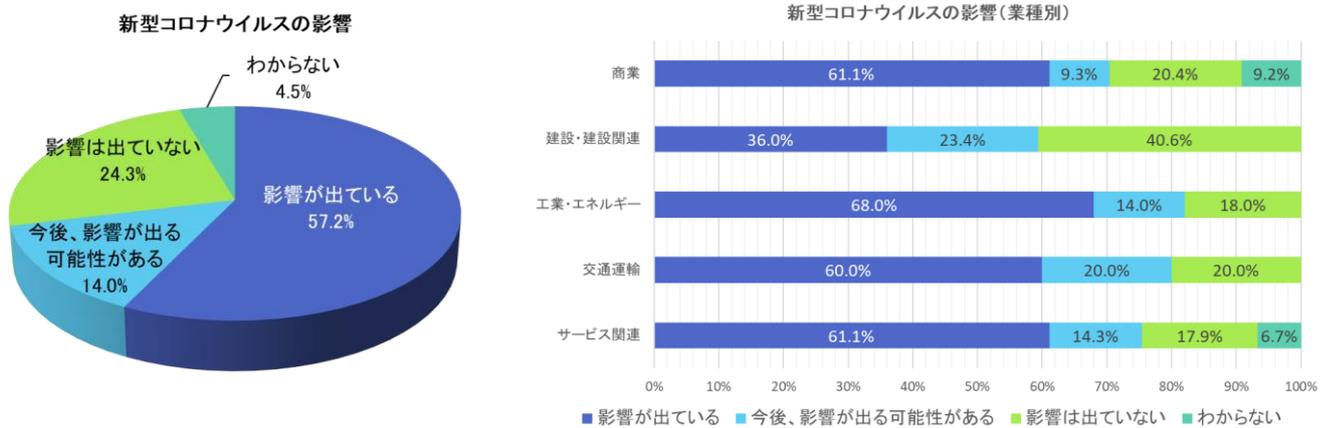


金融機関の対応について(業種別)



VIII. 新型コロナウイルスの感染拡大による企業活動への影響

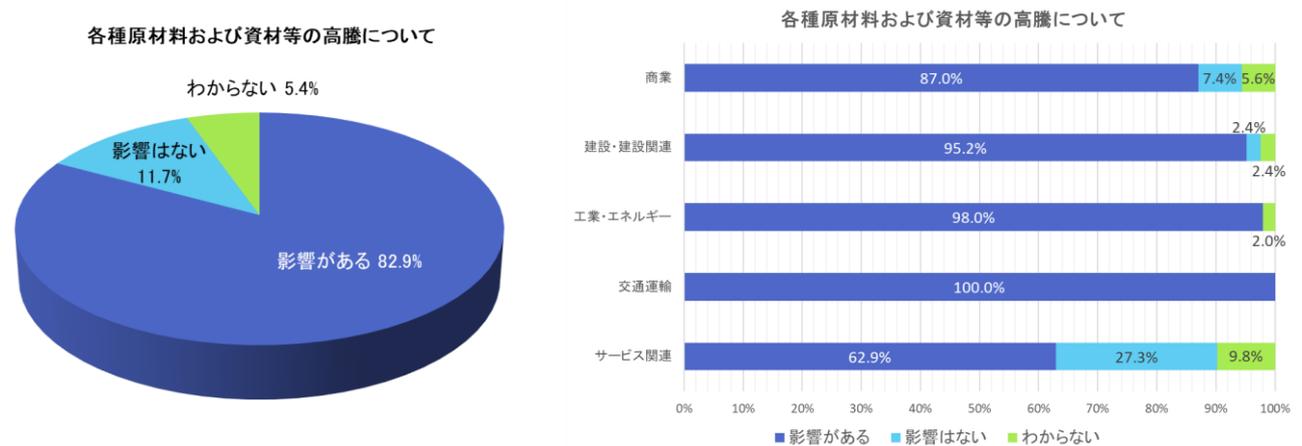
- 「影響が出ている」「今後、影響が出る可能性がある」合わせて71.2%で、前期75.2%から4.0ポイント減少。
- 業種別では、「商業」(57.1%→61.1%)、「サービス関連」(58.9%→61.1%)で「影響が出ている」が増加した。



IX. 各種原材料および資材などの高騰について

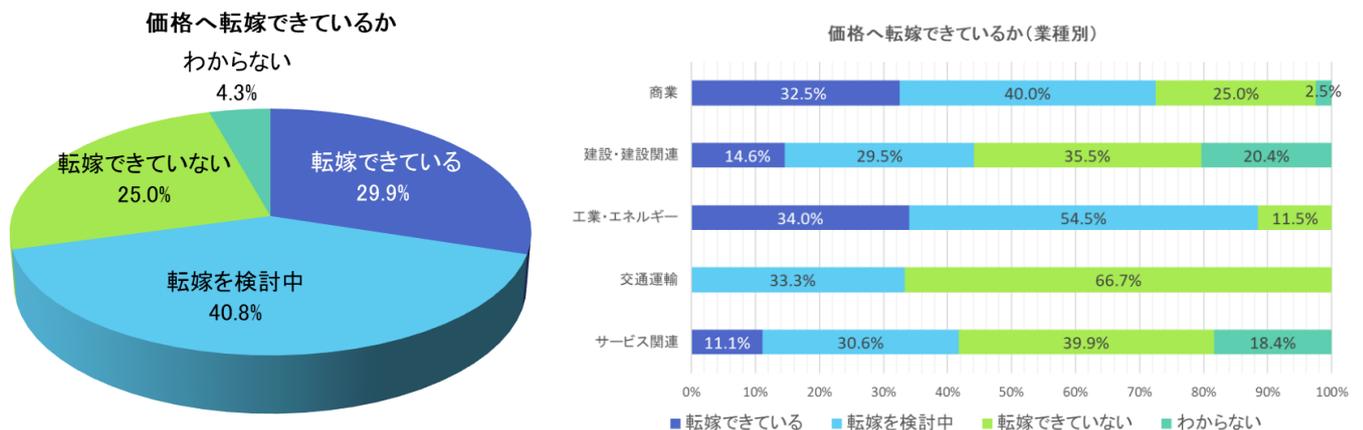
(1) 自社への影響について

- 「影響がある」は82.9%で前回調査比10.9ポイント増。8割を超える事業所が各種原材料および資材価格の高騰の影響があると回答した。
- 業種別では、「サービス関連」以外の全業種で「影響がある」が8割を超えている。



(2) 影響を商品およびサービスの価格へ転嫁できているか

- 「転嫁できている」「転嫁を検討中」合わせて70.7% (前回調査時62.2%)。一方「転嫁できていない」は25.0% (前回調査時31.4%)。価格転嫁が進みつつある状況がうかがえる。
- 業種別で、「転嫁できていない」という回答が最も多かったのは前回調査に引き続いて燃料コスト増に苦しむ「交通運輸」であった。



景況感について、令和4年7月～9月の景況DIは、前期▲6.1から6.1ポイント上昇し0.0となり、3期ぶりにマイナス域を脱する結果となった。業種別では、「商業」、「工業・エネルギー」、「交通運輸」の3業種で上昇した。

売上高については、令和4年7月～9月の実績DIは、前期3.7から6.9ポイント下落し、▲3.2となった。業種別では全業種で下落した。予想DIは来期（令和4年10～12月）が20.4で、年度後半（令和5年1月以降）は9.0となっており、先行きに対する期待感が表れる形となった。

新型コロナウイルスの感染拡大による企業活動の影響も前回調査比4.0ポイント減少したものの、依然7割を超える事業所がその影響や今後の影響への懸念を訴えており、感染拡大は落ち着いている感はあるが、まだまだ予断を許さない状況である。

前回調査に引き続いて「各種原材料および資材などの高騰」による影響について付帯調査を実施した。前回調査比10.9ポイント増加し、8割を超える事業所が「影響がある」と回答しており、その影響の大きさが窺える。また、経営上の問題点において「為替の変動」に対する回答が前回比12ポイント増加するなど、昨今の円安傾向に対する影響も表れている。

年末に向けた経済活動の加速化への期待感もあり、売上予測DIは大きくプラスとなっているが、先行きに対する懸念材料も多いことから、我慢の経営は当面続くことが予想される。